



欄に数値またはコメントを記入

1. 建物概要				
建物名称	(仮称)SKLんきん駅前プラザその2工事(プラザ棟)	BEE	1.3	BEEランク B+ ★★

2. 重点項目への取組み度				
重点項目	得点*/満点	取組み度	評価	
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進 (Global Warming)	3.6 /5		ふつつ	
"災害に強いしずおか"の形成 (Disaster)	3.0 /5		ふつつ	
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進 (Universal Design)	2.9 /5		がんばろう	
"緑化及び自然景観"の保全・回復 (Nature)	2.3 /5		がんばろう	
※対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	よい 4点以上	ふつつ 3点以上
			がんばろう 3点未満	

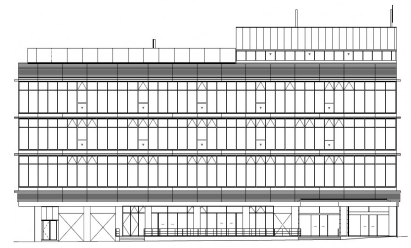
3. 重点項目についての環境配慮概要		内訳対応項目	
各項目について配慮した内容を、該当する番号(①~)を示し記述してください。			
"ふじのくに地球温暖化対策実行計画"の推進(Global Warming)		得点	3.6
<ul style="list-style-type: none"> ■室内環境対策 (①室温制御/②昼光対策/③グレア対策/④部品・部材の耐用年数) <ul style="list-style-type: none"> ①LOW-Eガラス及び高性能断熱材の採用 ②天井付近に開口部を設けている ④事務室-1の壁は石膏ボード仕上としている 配管部材は、主要な用途上位3種全てB種を採用 ■室外環境(敷地内)対策 (⑤生物環境の保全と創出/⑥敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> 特に無し ■エネルギー対策 (⑦建物外皮の熱負荷抑制/⑧自然エネルギー利用/⑨設備システムの高効率化/⑩効率的運用) <ul style="list-style-type: none"> ⑦BPI_m=0.62 ⑨BEI_m=0.65 ■資源・マテリアル対策 (⑪水資源保護/⑫非再生性資源の使用量削減/⑬汚染物質含有材料の使用回避) <ul style="list-style-type: none"> ⑪大便秘器:擬音装置 洗面水栓:定流量弁+自動水栓を採用 ⑫屋根断熱材及び小便器はグリーン購入法適合品を採用 OAフロアを採用 ⑬吹付硬質ウレタンフォームA種1Hを採用 ■敷地外環境対策 (⑭地球温暖化への配慮/⑮温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> ⑭LCCO2:75% 	<ul style="list-style-type: none"> Q-1 2 2.1 2.1.2 ① 外皮性能 Q-1 3 3.1 3.1.3 ② 昼光利用設備 3.2 3.2.1 ③ 昼光制御 Q-2 2 2.2 2.2.1 ④ 躯体材料の耐用年数 2.2.2 ④ 外壁仕上げ材の補修必要間隔 2.2.3 ④ 主要内装仕上げ材の更新必要間隔 2.2.4 ④ 空調換気ダクトの更新必要間隔 2.2.5 ④ 空調・給排水配管の更新必要間隔 2.2.6 ④ 主要設備機器の更新必要間隔 Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-1 1 ⑦ 建物外皮の熱負荷抑制 2 ⑧ 自然エネルギー利用 3 ⑨ 設備システムの高効率化 4 4.1 ⑩ モニタリング 4.2 ⑩ 運用管理体制 LR-2 1 1.1 ⑪ 節水 1.2 1.2.1 ⑪ 雨水利用システム導入の有無 1.2.2 ⑪ 雑排水等利用システム導入の有無 2 2.1 ⑫ 材料使用量の削減 2.2 ⑫ 既存建築躯体等の継続使用 2.3 ⑫ 躯体材料におけるリサイクル材の使用 2.4 ⑫ 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 2.6 ⑫ 部材の再利用可能性向上への取組み 3 3.1 ⑬ 有害物質を含まない材料の使用 3.2 3.2.1 ⑬ 消火剤 3.2.2 ⑬ 断熱材 3.2.3 ⑬ 冷媒 LR-3 1 ⑭ 地球温暖化への配慮 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善 		
"災害に強いしずおか"の形成(Disaster)		得点	3.0
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑯耐震・免震/⑰信頼性) <ul style="list-style-type: none"> ⑰電気配線及び通信配線については、二重天井内ケーブル槽がし配線としている 	<ul style="list-style-type: none"> Q-2 2 2.1 2.1.1 ⑯ 耐震性 2.1.2 ⑯ 免震・制振性能 2.4 2.4.1 ⑰ 空調・換気設備 2.4.2 ⑰ 給排水・衛生設備 2.4.3 ⑰ 電気設備 2.4.4 ⑰ 機械・配管支持方法 2.4.5 ⑰ 通信・情報設備 		
"しずおかユニバーサルデザイン"の推進(Universal Design)		得点	2.9
<ul style="list-style-type: none"> ■サービス性能対策 (⑱機能性・使いやすさ/⑲心理性・快適性/⑳空間のゆとり) <ul style="list-style-type: none"> ⑲階高:4.3m(基準階) 壁長さ比率:0.21 ■室外環境(敷地内)対策 (㉑地域性・アメニティへの配慮) <ul style="list-style-type: none"> 特に無し 	<ul style="list-style-type: none"> Q-2 1 1.1 1.1.3 ⑱⑲ ユニバーサルデザイン計画 3 3.1 3.1.1 ⑲ 階高のゆとり 3.1.2 ⑲ 空間の形状・自由さ Q-3 3 3.1 ㉑ 地域性への配慮、快適性の向上 		
"緑化及び自然景観"の保全・回復(Nature)		得点	2.3
<ul style="list-style-type: none"> ■室外環境(敷地内)対策 (㉒生物環境の保全と創出/㉓まちなみ・景観への配慮/㉔敷地内温熱環境の向上) <ul style="list-style-type: none"> 特に無し ■敷地外環境対策 (㉕持続可能な森林から産出された木材/㉖温熱環境悪化の改善) <ul style="list-style-type: none"> 特に無し 	<ul style="list-style-type: none"> Q-3 1 ⑤ 生物環境の保全と創出 2 ⑥ まちなみ景観への配慮 3 3.2 ⑥ 敷地内温熱環境の向上 LR-2 2 2.5 ⑫ 持続可能な森林から産出された木材 LR-3 2 2.2 ⑮ 温熱環境悪化の改善 		

CASBEE® - 建築(新築)

評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v4.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)SKLしんきん駅前プラザその2	階数	地上5F
建設地	静岡県掛川市駅前4-4, 4-7, 4-8, 4-9, 4-10, 4-11, 4-12, 4-13	構造	S造
用途地域	商業地域、準防火地域	平均居住人員	1,000 人
地域区分	6地域	年間使用時間	3,000 時間/年(想定値)
建物用途	事務所	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2024年2月 予定	評価の実施日	2022年11月14日
敷地面積	3,134 m ²	作成者	山戸 伸夫
建築面積	1,061 m ²	確認日	
延床面積	4,370 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.3

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

① 参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

② 建築物の取組み 75% (92 kg-CO₂/年・m²)

③ 上記+②以外の 75%

④ 上記+ 75%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 2.7

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 1.8

LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.1

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.3

3 設計上の配慮事項		
総合	これはCASBEE静岡(2016年版)による評価結果です。	
その他	特に無し	
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
事務所には、遮音性の高い窓を大きく計画することで、豊かなオフィス空間及び自然採光等の自然エネルギーを積極的に室内に取り込めるよう配慮した。	階高を高く確保し、壁長さ比率を低く抑えることで、将来のプラン変更等にもフレキシブルに対応可能な計画とした。	室内外の一部に、地産材である「掛川産材」を採用した。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
BPI=0.62 BEI=0.65	定流量弁や自動水栓等の節水水栓を採用し、特定調達品目に該当する資材を取り入れる計画とした。	燃焼機器を採用しないことで、環境負荷低減に寄与した。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される